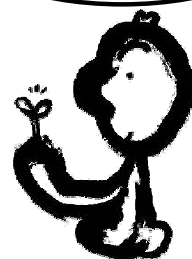


しみん基金・KOBÉ

NEWS

第 22 号

2010 年 8 月発行



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203(サンピア2F)
TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786
e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

「しみん基金・KOBÉ」に寄せる思い



当社の創業者であり、私の父・善之助は大正 11 年(1922 年)に生まれ、中学を卒業して 16 歳で洋菓子の世界に飛び込み、厳しい徒弟制度の中で早朝から深夜まで働きながら技術を研鑽しました。その後、戦中は海軍に招集されたり、戦後は大病を患って十二指腸の摘出手術を受けるなどの困難を乗り越えながら、昭和 39 年 10 月に、東須磨で念願の独立開業を果たします。

そして商売が軌道に乗ったときに父がやったことは、近所の「こどもの家」という施設に住む、身寄りのないお子様へのクリスマスケーキのプレゼントでした。父は幼くして親と離れ離れになってしまった子供たちと、16 歳で親元を離れて苦労した自分の姿を重ね合わせていたのかもしれませんが、このクリスマスケーキのプレゼントは昭和 40 年頃から、阪神大震災で「こどもの家」が移転するまでの平成 7 年(1995 年)頃まで、毎年欠かさず続けていました。

そんな父から会社を譲り受けた私も、その意思を継いで乳がん撲滅のピンクリボンキャンペーンへの協賛や、ユニセフへの寄付をさせていただいております。

特に、阪神大震災後は商売を通じて社会や困っている人たちの力になりたいという気持ちがとても強くなりました。震災までは順調に売上を上げていた当社ですが、震災で本店の工場が壊滅的な打撃を受けて、事業の存続が不可能という状況に陥りました。しかし、ジュンク堂書店の工藤社長など、実にたくさんの方に救いの手を差し伸べていただき、店を立て直すことができました。

当社が多くの皆様のご好意の中で現在も商売をさせていただいている中、今でも震災の影響で苦労されている方がいらっしゃることは非常に心苦しいことです。これまで受けてきたご恩返しのため、「しみん基金・KOBÉ」の活動をお手伝いしたいと考えています。

有限会社ボック・代表取締役 福原敏晃
(しみん基金・KOBÉ 理事)

主な目次

- | | | | |
|--------------------------------|---|---------------------------------------|---|
| ◆ 平成 22 年度定時総会報告 - - - - - | 2 | ◆ 平成 22 年度助成事業のご案内 - - - - - | 4 |
| ◆ 新理事のご紹介 - - - - - | 3 | ◆ コラム「市民社会を支えるお金の流れを考える」(8) - - - - - | 5 |
| ◆ 平成 22 年度はあ～とふるファンド支援事業結果報告 3 | | ◆ 15 年目のひとり言 - - - - - | 6 |

特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

平成22年度定時総会報告

5月26日(水)18:30より当基金事務所にて平成22年度定時総会を開催し、平成21年度事業報告並びに決算報告、平成22年度事業計画並びに予算計画、役員任期満了に伴う改選について、出席正会員数25名(委任状13名を含む、正会員総数42名)で審議し承認されました。概要は以下のとおりです。

平成21年度事業報告並びに決算報告

昨年度は、高野山真言宗をはじめ128の個人または団体より、総額:¥5,915,370の寄付・募金を頂きました。皆様の暖かいお志に心より感謝申し上げます。

イベントとして、例年通りぼたんの会(夜会、及び1・17メモリアルコンサート)及び、こうべi-ウォークを協働で実施しました。また、設立10周年記念パーティーを平成22年2月に開催しました。

昨年度の助成事業としては、17団体(少額枠:4団体、一般枠:7団体、特定枠:6団体)に総額¥4,997,000の助成金を交付しました。

10周年記念事業のひとつとして、「検証ビジョン検討委員会」にて、当基金のこれまでの活動を振り返り、これからの活動の指針となるものを検討しました。

平成21年度収支決算(概要)

< 経常収支の部 >	
【経常収入】	8,147,263
事業収入	1,422,000
会費収入	579,000
寄付金・募金収入	5,915,370
その他の収入	230,893
【経常支出】	10,520,651
事業費	6,277,468
管理費	4,243,183
経常収支差額	-2,373,388
当期収支差額	-2,373,388
前期繰越収支差額	16,800,605
次期繰越収支差額	14,427,217
< 正味財産増減の部 >	
【正味財産増加の部】	4,803
【正味財産減少の部】	2,453,388
当期正味財産増加額	-2,448,585
前期繰越正味財産額	42,099,779
当期正味財産合計	39,651,194

なお、詳細な事業報告及び決算報告は当基金のホームページの下記URLに掲載しています。

http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/about/plan_report.html

平成22年度事業計画並びに予算計画

助成事業は、「次代の市民活動の担い手育成を重視する」という基本方針のもと、総額300万円で実施する予定です。

パブリックリソースセンターと提携して「NPO マネジメント支援コンサルタント養成入門講座(西日本地区版)」を開催します。

平成22年度基本方針

当基金は「市民自らが市民活動を支えるファンド」として創設され、草の根の市民公益活動を支援することを通じて、「新しい市民社会」の確立を目指してきました。

昨年度は節目の10年目を迎え、記念パーティーを開催し、合わせて会員を中心とした「検証ビジョン検討委員会」を通じて多くの人たちからのご意見をお伺いしながら、当基金のこれまでの10年を振り返り、これからのあるべき姿について協議してきました。

そこで浮き彫りにされてきたことは、「絆」の大切さ、ということでした。この10年間の助成事業は、助成された団体の様々な活動を通じて、地域における身近な助け合いや支え合いの連鎖を産み出してきました。これからも、人と人、人と社会、人と自然のこころのこもった「絆」を創り繋いでいくことが、当基金の果たすべき大切な役割であることが共有されました。

この役割を果たしていく上での大きな方向性として、1)ネットワークの力を生かすこと、2)多種多様な市民・企業等からの安定的な資金調達の基盤をつくっていくこと、3)助成の方向性を明確にし深化させること、が挙げられました。

昨年度の政権交代を受けて、「新しい公共」実現に向けての動きも始まりつつあります。そこで当基金の大きな方向性とこのような社会の動きを受けて、まず今年度の活動では以下の点に重点を置くこととします。

- (1) 支援者(賛助会員、応援団、サポーター)拡大や市民活動の基盤強化に資するための戦略的なネットワークを築いていくこと
- (2) 小規模でかつ気楽な形式で連続的なイベント募金等、多様な寄付機会を開拓・企画・提供すること

(3) 次代の市民活動の担い手育成を重視していくこと

平成22年度事業計画(概要)

1 寄付受入・募金活動
ア) 直接寄付
イ) イベント募金(こうべ! ウォーク等)
ウ) 職域募金(あじさい基金)
エ) 協働企画寄付システム(リサイクル寄付事業等)
2 助成事業
ア) 本体助成事業
イ) はぁ~とふるふぁんど支援事業(=受託事業)
3 啓発・講座事業
ア) 講演会
イ) NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座
4 運営管理業務
ア) 広報・情報発信(ホームページ、ニュースレター等)
イ) ネットワーク活動・スタッフ研修等
ウ) 中期計画(案)づくり

平成22年度収支予算(概要)

【経常収入】	7,200,000
会費収入	950,000
事業収入	700,000
寄付金・募金収入	3,150,000
その他の収入	470,000
基本財産より繰入金	2,000,000
【経常支出】	7,200,000
事業費	3,150,000
管理費等	4,050,000
経常収支差額	0

役員任満了に伴う改選について

今年度より以下の皆さんに役員を務めて頂きます。任期は2年間です。

理事長	黒田裕子	理事	石本章宏
副理事長	村井雅清	理事	大谷敦子
専務理事	瀬戸口仁三郎	理事	室崎益輝
常務理事	野崎隆一	監事	森田拓也
理事	渥美公秀	監事	佐藤庸安
理事	戎正晴		(以上の方は、再任)
理事	奥井秀樹	理事	福原敏晃
理事	飛田雄一		(以上の方は、新任)
理事	吉本悦		

新理事のご紹介

新しくご就任頂きました理事を、ご紹介させていただきます。新理事からのメッセージは、巻頭コラムをご参照下さい。

福原 敏晃(ふくはら としあき)氏

昭和28年7月12日、神戸市須磨区東須磨出身。

立命館大学・経営学部を卒業後、有限会社ボックに入社。その後、昭和51年に専務取締役に就任し、平成8年に副社長に就任。そして平成11年より先代で創業者ある父・善之助の後を受けて代表取締役に就任。【社外での活動】兵庫県洋菓子協会副会長、大手前製菓学院で特認教授【称号】ひょうごの匠(兵庫県認定)、神戸マイスター(神戸市認定)



平成22年度 はぁ~とふるふぁんど支援事業結果報告

平成22年1月18日~3月19日に申請受付しました「はぁ~とふるふぁんど」支援事業に今年も214団体ものご応募を頂きまして、誠にありがとうございました。厳正なる審査の結果、下記の31団体に支援金を贈呈することになりました。

【地域振興サポート部門】

淡路島・南海島サッカー交流実行委員会、(特活)新開地まちづくりエヌピーオー、神戸全日本女子ハーフマラソン大会実行委員会、ノマド村実行委員会、高砂市柔道協会、赤野元気アップクラブ、(特活)清交クラブ、三田演技塾、「韓国朝鮮人無縁仏の碑」相生平和記念碑を守る会、ベルディーホール開館20周年記念事業実行委員会、赤穂温泉旅館組合、神河町観光協会、河合さつき盆栽会、八千代少年野球協会、銀の馬車道ネットワーク協議会

【ボランティアあしすと部門】

兵庫県更正保護女性連盟、和田山町駅前「トラ市」実行委員 福祉支援の会、いのちのうた、菅生地区あおぞら会、神鈴会、塩屋オリーブ、もちの木、(特活)サンブロススポーツクラブ、宝塚不登校の会「サポート」、(特活)兵庫県難聴者福祉協会、自立生活センターリングリング、こころ・あんしん Light、(特活)ふくろう、阪神北地区薬物乱用防止指導員協議会、兵庫県車椅子ツインバスケットボール連盟、アジア女性自立プロジェクト

平成22年度しみん基金こうべ・助成事業のご案内

しみん基金こうべの助成事業が今年も始まりました。地域の中で様々な障壁に立ち向かいながらも、社会的課題の解決に自律的に取り組んでいこうとされる市民活動の芽生えを、市民自らの手でお互いに支えあい大切に育てていこうという「草の根」支援が当基金の精神です。

これまでに、延べ116団体に累計総額4,200万円以上の助成金を交付してきました。この財源は、市民一人ひとりからの暖かいお志によるもので、助成先選考にあたっては市民目線での審査を公開の場で実施してきました。また、これまでに助成を受けられた市民活動団体は、今では地域になくはならない支えあいの担い手として活躍されています。

今年は、「次代の市民活動の担い手育成を重視する」という年度基本方針のもと、総額300万円の助成金交付を予定しています。申請書を作成されるにあたっては、個別相談会(要予約)を実施しています。概要は以下の通りですが、詳細は応募要項(「助成のしおり」)がございますので、ご連絡頂ければご送付します。また、当基金のホームページからもダウンロードできるようにしていますのでご活用下さい。応募要項をご熟読いただいた上で、ご応募いただきますようよろしくお願い申し上げます。

概要

助成額:1団体あたり事業費総額の4分の3以内かつ上限50万円。

選考方法:原則として、書類審査・ヒアリング調査の上、公開審査会でのプレゼンテーションにより決定します。

助成対象:神戸市及びその周辺地域に住所を有する非営利団体(法人格の有無は問いません)

特徴:A)活動分野に限定はありません。

イ)助成金の使途科目にも原則制限はありません。

優先事項:選考にあたっては、市民社会の確立・存続にふさわしい草の根性、開拓性・先駆性、団体としての継続性、地域との連携・協働を図るものを、優先します。

スケジュール

平成22年7月20日～8月27日:個別相談会(原則火・木・金)

7月20日～8月31日:応募申請受付期間

9月16日:書類審査

9月下旬～10月上旬:ヒアリング調査

10月26日:公開審査会

11月上旬:覚書締結・助成金交付

*

平成22年10月1日～平成23年9月30日

:助成事業実施期間・中間ヒアリング

平成23年10月末日:最終報告書提出

12月頃:市民活動交流会(仮称)

しみん基金・K O B E の活動報告(2010年4月～7月)

【イベント・講演・研究会他】

4月2日 はぁ～とふるファンド1次審査会

4月3日 先端医療と市民の協働を考えるシンポジウム
「iPS細胞を使った病気の研究」
@臨床研究情報センター(TRI)・研修室

4月23日 はぁ～とふるファンド最終審査会

4月27日 神戸市アドバイザー派遣事業MTG

5月9日 (特活)日本ホスピス・在宅ケア研究会主催
認定NPO法人制度学習会 講師:江口

5月17日 コープともしびボランティア振興財団・市民活動交流会
@コープこうべ生活文化センター2Fホール

5月31日 NPO会計基準最終案学習会 @京都
主催:NPO会計基準協議会、きょうとNPOセンター

6月2日 CPRD連携事業打合せ @東京

6月11日 はぁ～とふるふぁんど支援金贈呈式
@クラウンプラザ神戸

7月6日 NPO法・税制改正関西地域学習会
@大阪NPOプラザ
主催:NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会

7月23日 神戸市アドバイザー派遣事業MTG

7月28日 関西財団の集い「公益認定を巡る最近の状況について」@大阪商工会議所4F会議室

【会議等】

4月28日 四役運営会議

10周年記念事業・検証ビジョン検討委員会:「基本的な方向性について」「助成の方向性」「事務局人員」、平成22年度事業計画・予算計画(案)、役員改選、などについて協議

5月7日 会計監査(佐藤、森田監事)

5月7日 平成22年度第1回理事会

平成22年度定時総会に付議する事項、審査員選任について審議

5月26日 平成22年度定時総会(詳しくはP2参照)

6月22日 四役運営会議

平成22年度助成事業、検証ビジョン検討委員会報告書・講演会事業等について協議



コラム・市民社会を支えるお金の流れを考える(8)

しみん基金・K O B E事務局長 江口 聡

これまで、7回にわたって書いてきましたこのコラムも、今回で最後にしたいと思います。まずは、前回からの続きで、NPO/NGOと市民の間をつなぐ中間支援組織に求められていることの最後のひとつについて記述します。それから、最後にこのコラムのまとめとして、社会全体で考えていかなければいけないことに触れておきたいと思います。

NPO/NGOのマネジメント力

NPO/NGOと市民の間をつなぐ中間支援組織に求められていることの最後に、市民活動団体等の支援者向けの活動(情報公開・説明責任)の基盤強化に寄与することを挙げたいと思います。

第1回目のコラムにも書きましたが、多くの市民活動団体は確かに良いことをしているのですが、目前の問題解決の活動に熱心であるあまりに、支援者側への働きかけや将来に向けてのビジョンづくりなどの活動がおろそかにされがちであるように思われます。中間支援組織は、個々の市民活動団体がその両側のバランスのとれたマネジメント力を身につけられるように支援することが求められているのではないでしょう。

神戸では、いくつかの中間支援組織が協働して「NPOアドバイザー派遣事業」というかたちで、個別の市民活動団体に対するマネジメント支援を行うスキームがあります。また、当基金も今年度よりこのような支援の担い手を育成するための「NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座」に取り組み始めています。

「税金」と「寄付」

多様な価値観が存在する現代社会の中で、また迫りくる気候変動や資源エネルギー・食糧問題への対策が求められる中で、かつ貧困や格差がますます広がるグローバル社会の中で、「無縁社会」と呼ばれる現代社会の病理の広がりを解決していくためには、もはやこれまでのような「官」依存体質のままの「公共」では立ち行かなくなるのは必定です。そのためにも、NPO/NGOが一つのセクターとし

しっかりと自律的に機能することが、今後ますます求められてきます。また、それを支える為には、「公共」を実現するためのお金の流れとして、民主的な権力による「税金」というお金の流れと、ひとりひとりの社会的「使命」に沿った自由な意志による「寄付」というお金の流れとの、その異なる役割・意義を理解し認識を深めて、どのように両者のバランスをとると最適な「公共」が実現できるのかを十分に議論して、社会的な合意形成を図る必要があると思います。今後の税制改正の議論の進展を注視したいところです。

まとめとして

これまで「市民社会を支えるお金の流れを考える」というテーマで、当基金の仕事をするを通じて感じてきたことを、まとめてきました。ひとことで要約すると、一人ひとりが良い社会をつくるために「お金」の使い方には自身の「使命」に沿った「意志」を込めましょう、と述べたかったわけです。最後に、このことに関連して以下の3つの大切なことに触れておきたいと思います。

ひとつめは、新しい公共(=民の担う公共)を根源で支えるものは、他者への思いやりを持ちながら、自分たちの社会は自分たちで助け合いながら良くしていこうという「ボランタリー精神」が大切である、ということです。そのことこそ、阪神淡路大震災で学んだ教訓であり、「お金」には換え難い価値(=「絆」)を生み出す源泉であったのでした。

ふたつめは、社会の中でのお金の流れを変える前提として、「寄付」には仏教におけるお布施のように、3者(提供者、お金そのもの、受領者)が清浄であることが求められるということです。清浄なお金の流れだけが、社会の窮地を最期は救ってきた歴史をこの列島の人々は経験してきた、と私は思っています。

最後に「寄付」とは、多様な「いのち」の存在を尊重し、お互いの「こころ」を育み、未来へ続く「暮らし」を創造する「新しい市民社会」への贈り物である、と私は考えています。そしてそれを生かす様々な民間によるしくみづくりが今こそ求められているのです。(おわり)

<リサイクル寄付のお問い合わせ & ご協力方法>

古着： オレンジスリフティ TEL 078-858-7090

〒657-0027 神戸市灘区永手町3-1-208

オレンジスリフティ 六甲店

- ・上記ショップへ持参または宅配便にて送付してください。
- ・送付の際は、メモにて「しみん基金こうべ リサイクル寄付」とご記入の上、送料は送り主様にてご負担ください。
- ・お洗濯やクリーニングなど、一般的な処置を済ませただいた上で、あまりに汚れているものや消えないしみについているものは除いてください。再販が可能なものと考えていただければ大丈夫です。

家電・音楽機器・パソコン等の電子機器：

(株)こうべリサイクルセンター リサイクル寄付事業部

TEL 078-303-6201

〒650-0046 神戸市中央区港島中町1-1-14

- ・上記お問い合わせ先へお電話下さい。「リサイクル寄付」とお伝えください。)
- ・お電話にて、商品がリサイクル品として再販可能かどうか確認させていただきます。
- ・再販可能と判断された場合は、上記のあて先まで宅配便にてご送付下さい。(「リサイクル寄付」と明記ください。送料はご負担いただきますようお願いいたします。)

15 年目のひとり言
～ 消えた高齢者～

東京都・足立区に端を発した「消えた高齢者」問題は、あっという間に全国へ飛び火し、各地で消息不明の高齢者の存在が明るみになっている。イギリスのタイムズ紙が「超長寿を生んだ日本の名声はボロボロ」「世界に誇る 100 歳以上の人口世界一は、確かな証拠はなく、紙に基づくものだった」と報じるなど、消えた高齢者問題は、海外メディアでも大きく取り上げている。

神戸市でも調査の結果、百歳以上の高齢者の内、100 人以上の消息が不明となっているそう。生存しておられれば国内最高齢となる 125 歳の東灘区の女性の場合、住民登録されている場所は約 30 年前に市営公園となっており、「いつからかは分からないが、福祉課では以前から所在不明であることは分かっていた」（東灘区市民課）という状態。同区の健康福祉課の担当者は長期間所在不明を確認していたが、住民基本台帳への登録などを行う市民課へ報告せず、更に市の高齢福祉課にも報告されておらず、行政内の連携不足が浮き彫りとなっている。

また、年金の不正受給といった悪質な場合も多数あるようで、単純に行政だけに責任を押し付ける訳にもいかないようだ。今後益々増加する「高齢者」を地域社会としてどの様に見守っていくのか、そして、それをサポートする行政のシステムはどうあるべきか、当基金の今後のテーマである「絆」「つながり」の重要性を「消えた高齢者」問題は示唆している。

しみん基金・K O B E 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

正会員 個人 39 名 団体 4 名
賛助会員 個人 62 名 団体 12 名
(2010 年 7 月末現在)

寄付・募金合計金額 85,994 円
寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)
オレンジスリフティ
(2010 年 4 月～7 月)

篤いお志に心より御礼申し上げます。

「しみん基金・K O B E」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000 円
団体会員 年間 10,000 円

お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854
郵便振替 00990-5-157334
口座名義 「しみん基金・こうべ」



あ と が き

先日、Be-Nature 主催のファシリテーション基礎講座に参加してきた。もう数年前に中野民夫さんの『ワークショップ』(岩波新書、2001)を読んで以来、気になっていた講座だ。受講してみたの感想は、多くの経験やスキルが盛り込まれていてさすがに完成度の高いワークショップだ、ということだった。そして、そんなスキル以前の問題として、自然体でいること(Be-Nature)、という自分自身の内面への姿勢の大切さとその実践の難しさに気付かされた。(え)

【お詫び】

今回号(第 22 号)の発行は当初 7 月を目指していましたが、事務局の都合により延期され、重要なお報告が随分遅くなってしまいました。この場を借りて、謹んでお詫び申し上げます。

次号の予告(2010 年 11 月頃発行予定)

・平成 22 年度しみん基金 K O B E 助成事業の結果報告など